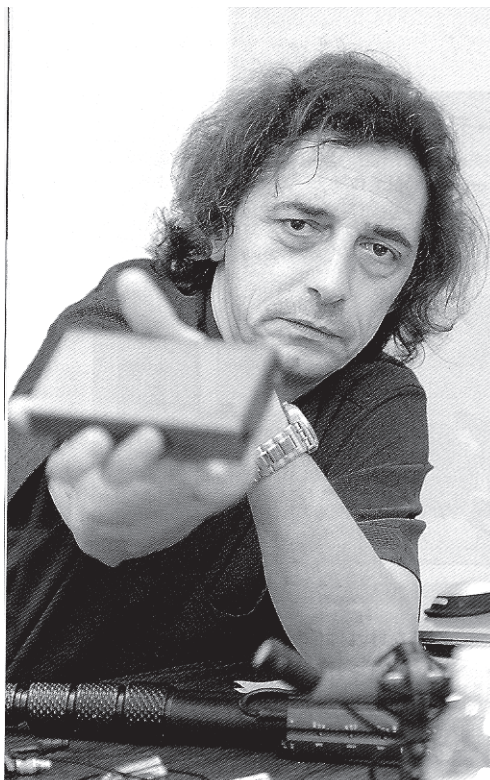




去る2005年のInterBEEにおいて、目を疑うようなハイスペック製品が発表されていた。そのひとつが「ソノサックス」社のコンパクト・デジタル・レコーダー「MINIR82」である。昨今プロ/民生問わず、テープメディアに変わって台頭してきているHDD/半導体メディアを使用したデジタル・レコーダーの存在。「MINIR82」もHDDとコンパクトフラッシュカードを用いた新勢力レコーダーのひとつだが、驚くのは名刺入れ程度の筐体の中に最高のプロスペックを搭載していることである。「ソノサックス」社は1977年、「ナグラ」社を経てSRや録音の現場で経験を積んだジャック・サックス氏が創業した。本誌では1998年にジャック氏へのインタビューを敢行しているが、このたび現場視察のための来日中に多忙なスケジュールを縫って取材を受諾してくださった。2006年に入ってから「MINIR82」をはじめ、「SX-S」に代表される同社の“十八番”であるコンパクト・ミキサーの新製品「SX-ST」リリースと魅力的な製品の発売が相次いでいる。各モデルの詳細について、また製品開発に対する想いについてをジャック・サックスご本人から伺った。

インタビュー: 岩井 喬 撮影: 土屋 宏 取材協力: ゼネラル通商(株)

Prime Talk

SONOSAX Managing Director

ジャック・サックス氏に聞く

ポータブル機器のオーソリティが 「MINIR82」と「SX-ST」に込めたプロスペックへの情熱

「MINIR82」が持つ 機能と特徴

プロサウンド(以下、PS) 本誌で1998年にあなたへインタビューを行なっていますが、その後の「ソノサックス」社の動きについて教えていただけますか。

ジャック・サックス(以下、JS) 98年の頃はまだDATが全盛でしたね。その後徐々にHDDレコーダーの需要が高まってきました。当時「STELLADAT II」を発表したタイミングでしたが、この時流の中ではなかなか販売も難しく、現在はその製造も完了しました。この「STE-

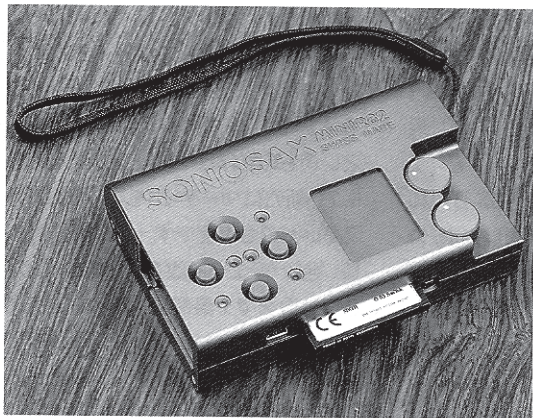
LLADAT II」の開発費とそれに変わる新しい製品開発費用のために200万スイスフランを無駄にしてみましたよ(笑) 我々もHDDレコーダー開発のため、色々と研究を重ねてきたのですが、最近になってようやくいいコンポーネントが手に入るようになってきました。コンピューター用HDDでは貧弱だったのですが、現在は小さくコンパクトで大容量、しかも衝撃に強いHDDが登場したので「MINIR82」のような小さなレコーダーが実現しました。

PS なるほど。「MINIR82」の機能について教えてください。

JS 「MINIR82」は先程も申し上げましたが非常にコンパクトなボディですが、アナログ・マイク・インプットで2ch、ライン・インでステレオ2ch、更にAES/EBUで最大8ch分のデジタル入力にも対応します。192kHz/24bitクオリティの録音を最大8トラック個別に30GBのHDDへ記録が可能です。そして2chにミックスした音声をコンパクトフラッシュカード(以下、CF)へ録音することもできるようになっています。小さいボディですから、ポケットに入れて録音できますよ。

PS 開発はいつぐらいからスタートされ

SONOSAX



「MINIR82」オーディオ・レコーダー。ハードディスクおよびコンパクトフラッシュ・カードを録音媒体に持ち、4本のAA(単3)型NiMHニッケル水素バッテリー使用で、およそ3.5〜5時間(構成により異なる)稼働する。外形寸法わずかW120×H80×D28mm、重量はバッテリー込みで430gという文字通りのコンパクトさ

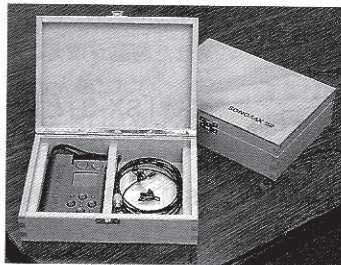
たのですか。

JS 2004年頃ですね。昨年の「InterBEE」でプロトタイプを発表しましたが、最初のユニットは今年の8月に販売しました。主に映画や放送分野、インタビュー用途で使われていますよ。

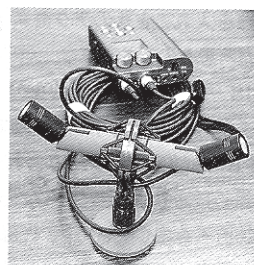
プロ仕様としてのこだわり

PS プロ仕様ということで価格も78万円という、決して安くはないですね…。最近CFを用いる安価なコンパクト・レコーダーがプロ・民生用問わず登場しています。そういった他メーカーの動きについてはどう思われますか。

JS 「MINIR82」は他メーカーに較べて一歩先を行っていると感じています。オーディオのクオリティも素晴らしく、「コンパクトだから」という偏見も寄せ付けられないほどです。この大きさとHDDとCFを同時に搭載し、CFへバックアップを移すことも可能です。またボディサイズを活かした特殊な状況での録音も強みのひとつです。フランスのクライアントの話ですが、彼らがアフガニスタンで映画を収録している際、「MINIR82」をヒロインの女性のポケットに忍ばせて録音したそうです。そうしないとレコーダ



自身が手がけたポータブル機器に対するジャック氏の想いは、そのパッケージにも表れている



ジャック氏作のステレオ・マイク。カプセルは「ショップス」製

ーを没収されるそんなんですよ(笑) クラシック音楽の収録にも耐えられますし、バイクの音を収録したり、馬に乗ったりしてその足音を

録ったり…。小さいのでどこにでも取り付けられるというメリットがあります。

PS CFはメディアとハードとの相性もあるかと思います。民生機の中ではエラーが起きってしまうといったトラブルもあるのですが…。

JS 可能な限り、すべてのCFで動作するようテストをしています。CFを選んだのは伝送速度が高く、小さすぎず手頃な大きさだったからです。メディアの価格も比較的安いですしね。ただし伝送速度の関係もありまして、CFは2chだけの録音という仕様になっています。

PS HDDは衝撃に強いものを採用したとのことですが、振動に強いというのはフィールド・レコーダーでは重要な要素ですよ。

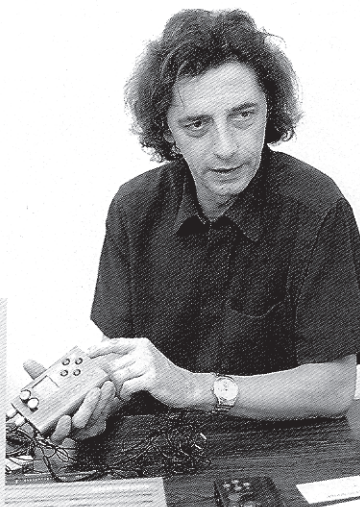
JS そうですね。しかし日頃の手入れというわけではないのですが、時々HDDのフォーマット作業を行なって欲しいのです。192kHzで録音するとデータ量も非常に大きなものになります。より安定した状態を保持するためにはHDDのフォーマットが非常に重要です。アナログな話になりますが、「ナグラ」などのオープンテープ・レコーダーは使う前にアジマス調整などのチェックが重要になりま

すよね? それと同じような感覚でHDDフォーマットの重要性を捉えていただきたいのです。あとはHDDの製造会社から言われているのですが、機械的な構造の関係でできれば2、3年ごとにHDDを交換して欲しいそうです。

PS 「MINIR82」は民生機の一番小さなモデルとほぼ同じ大きさですよ。最高水準の性能を持たせているのに、この筐体の大きさを実現できた一番のポイントはなんでしょうか。

JS それは私がベスト・デザイナーだからですよ(笑) インタビュー用などを想定して、もっとシンプルな2ch仕様の製品も作ろうとしたのですが、他社でも出していたのでやめました。そこでハイエンドの方向性で固定したのですが、「MINIR82」は筐体だけで10万円はしてしまいます。ボディは専用の旋盤を使ってアルミのブロックから削り出していますが、一個作るのに4時間はかかります。そしてブロックの80%は削り捨ててしまうのです。

PS なるほど。長い期間使うなら、高くても理にかなっていますね。そして電



Prime

源を入れたときのアクセス速度も重要だと思うのですが…。

JS オリジナルのOSなので速いですよ(笑) 10秒以内には起動できます。

PS HDDとCFを組み合わせた大元のアイデアですが、どちらかを採用するメーカーも多いと思います。両方を搭載した理由を教えてください。

JS 一番にバックアップが必要だということです。DVDメディアを使ったバックアップも考えたのですが、大きいですし埃に弱いので断念しました。フランスでは映画の撮影後、毎日録音した内容を2トラックにしてエディターに渡さないといけないのです。そういった理由もありまして、このCFを採用したのです。

PS 今後、レコーダーのメインになるのはこの「MINIR82」ですか？ この後の展開についても教えていただけますか。

JS そうですね。単体レコーダーにおいては暫く「MINIR82」でいきます。改良というところではソフトウェアのバージョンアップでしょうか。ひとつ改善してすぐに新しいものを出すという事はしません。新しいものにはバグがつきものですから慎重にやっていきたいですね。そしてクライアントから「こういったものを作って欲しい」だとか、「何チャンネル必要か」といった意見を吸い上げて、来年の計画へとうまく反映できるよう考慮しています。その要望のひとつとして、CFに8ch録音できるようにして欲しいという声がありますので、これからその課題にも取り組んでいきたいですね。あとはレコーダーをミキサーと融合させていきたいというプランを持っています。そ

の方向性から、今後はミキサーと融合させた製品が増えていくと思いますよ。

名機「SX-S」と「SX-T」を融合させた新ミキサー「SX-ST」

PS もうひとつの新製品、「SX-ST」についても伺っていききたいと思います。コンパクトな「SX-S」とコンソール・タイプである「SX-T」の機能性を融合させたようなミキサーであるとか。

JS はい。「SX-ST」は最大10ch、コンパクトでバッテリー駆動が可能なモデルです。「SX-VT」は10～最大40chまで拡張可能ですが、電源に関してはACなど、外部供給のみの製品です。ともにVCAモジュールやステレオ・モジュールを入れたりできます。「SX-ST」「SX-VT」の差は、多少シャーシが違い、拡張性があるというくらいで、機能については同じです。「SX-VT」は韓国で既に3台納入してまして、更にあと一台納入予定です。大きさは20数ch規模のものです。

PS 「SX-ST」のメイン・ターゲットはどういった層に向けているのでしょうか。

JS 主に映画業界ですね。一例ですと、フランスのTV局「TF1」も「SX-ST」を購入してF1中継で使っているそうです。ヨーロッパ圏内だと中継車にもっと大きいものがありますが、それ以外の地域に行く際は「SX-ST」を持っていけます。「SX-ST」は飛行機にも手荷物で持ち込めるサイズです。他にはアメリカのアカペラ・グループのツアーに「SX-S」を活用していると聞いています。彼らは大きなコンソールを使わないのです。

年内には「SX-ST」に変えるそうですよ。「SX-S」は20年前に開発したモデルなのですが、非常にいいもので、世界中のほ

とんどのエンジニアが持っているくらいです。ただ行き渡ってしまったのか、ある以上の数は売れなくなってしまったのも事実ですね(笑) しかし我々も「もっといいものを作りたい」という気持ちでして、新たにマーケットを興したいと考えていたのも事実です。「SX-S」発売以降、色々なところを改良した結果、「SX-ST」は今までで最高のものができたと思っています。

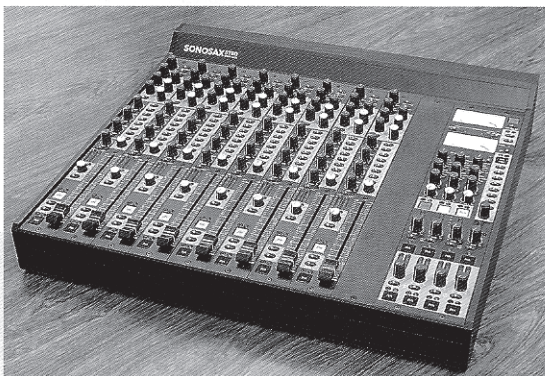
PS 「SX-S」を既に持っている皆さんに対して、「SX-ST」のアピール・ポイントはどんなところでしょうか。「SX-T」のテクノロジーが加わったところですか。

JS 「SX-S」と「SX-T」は内部のバスに関しては同じものになっています。ダイナミックレンジも「SX-S」に較べて10dB良くなっていますので、すべての項目に関して良くなっていますよ。「SX-ST」は理論上の限界に近付いているといっているでしょう。

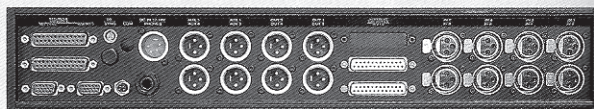
PS スペックも200kHzまで対応できると謳っていますが、具体的にどこを改良してここまでのスペックを持たせることが可能になったのでしょうか。

JS やはりエレクトロニクスのデザインではないでしょうか。良い設計、良い部品を使うことです。あとは基板のデザインも重要です。200kHzまでスペックを延ばしますと、可聴域である10～20kHz周辺の特性が良くなるのです。ノイズも少なくなって、よりクリアな素晴らしいサウンドになります。

PS なるほど、基本性能を良くするためのワイドレンジ化ということですね。耐久性もあり、性能も良い製品は、製造する側も、そして現場の作り手側も求めているところだと思います。しかしながら完成度の高い製品を扱う側としては、限られたマスに対して売っていくということになるかと思います。その辺はどのように考えていますか。



ソノサクスの25年の経験を基に、「SX-S」の可搬性と「SX-T」の機能性を融合させたコンパクト・ミキサー「SX-ST」



リアパネル

JS そうですね。「SX-S」はまだ世界中で600台は稼働しているので、願わくば「SX-ST」をトライしてもらって買って欲しいですね。「SX-S」ではメインLRとAUXがひとつしかありませんでした。しかし「SX-ST」は8バスありますので、8トラック・レコーダーへの対応も可能です。またダイレクトアウトもありますし、AUXも4バス用意されているので、大きく機能性が変わるはずですよ。日本のTV局だけでなく、欧米のTV局からも色々なアウトプットを要求されるのです。「SX-S」ではコンパクトさと音の良さがアピールポイントでしたが、それにプラス機能面を充実させたものが「SX-ST」であるということです。そういう意味では「SX-S」よりも便利で売りやすいですね。

PS レコーディング・モジュール取り付けについては現場からのニーズでしょうか。それともあなたのアイデアですか。

JS これは私のアイデアです。今出回っているレコーダーはオーディオ面が良くありません。それならば「MINIR82」の機能を盛り込んでしまえばいいのではないかと考え、モジュール化してみました。ミキサーとレコーダーを結ぶケーブルの接続は煩わしいものですからね。ミキサーと一緒に接続ミスもなく取り回ししやすいからです。

PS あなたはご自身で録音もされるそうですが、機材の設計に関してもご自身が使いやすいように考えてデザインされるのでしょうか。

JS そうです。デザイン会社と共同で取り組むものもありますが、内部デザインは弊社内のエンジニア2名によって設計されています。こういったデザインがいいのかというのは必然的に分かってくるものでして、「こういうものが欲しい」というアイデアが頭の中にあるので、そのアイデアを基に作り始めます。しかし

実際にこれらを使って録音しに行く時間がないことが悩みなのです(笑)

PS 設計の際、一番大事にしている要素は何でしょうか。「SX-ST」は見かけ以上にずっしりとくる重さがありますが…。

JS それは中身がぎっしり詰まっているからです。設計の際、一番優先して考えるのは音質のことですね。そして新しい製品を作る時には必ずクライアントに意見を聞きます。その話の中には些細なことでも重要なものもありますからね。先日、京都・太秦にある「東映」のスタジオへ行ったのですが、その現場でも「SX-ST」が稼働していました。その時気付いたのはスペース上ギリギリで、これ以上大きいとカートに載らないサイズだったんです。このように実際に現場へ赴き、現状を目にしておくことはとても重要だと感じました。ですから毎年色々なところに出かけて現場を見てくるのです。

今後の展開

PS 次に考えている製品のアイデアは何かありますでしょうか。

JS そうですね、今頭の中にあるのはもっと小さい筐体でシンプルな6chぐらいの製品で、「SX-ST」とは違うエンジンのミキサーを考えています。そして同じプロフェッショナルな機器を製造する中小メーカーとコラボレートしていくことも必要だと考えています。数年前には「ペイヤー・ダイナミック」と共同で「MV100」というマイクプリアンプを開発しました。我々のブランドで製品とセットとなるマイクは「ショップス」との共同開発でOEM生産してもらっています。それ以外にも製品化に至っていませんがデジタルマイクの開発についてのディスカッションも行なっています。

PS 前回の取材の折、あなたは製品を安くして大量に売るよりは高くても優

良な製品を確実に作っていきたいと語っていましたね。今でもそのスタンスは変わりませんか。

JS ええ。変わらないですね。今後も変えていく気はないですよ。社員もみな良い人たちですし、何よりも弊社製品を使って喜んでくれる人たちを見るのが非常に楽しいのです。もう数字やお金にはこだわっていません。弊社は小さい会社であり、製品を供給するのも小さいマーケットです。そういった中で安っぽい製品を作りたくはありません。他社は安くして利益を得る方向を目指していますが、我々は一切妥協せず、最高のものを目指しています。それが我々の経営哲学です。

PS 「ソノサックス」社のスタッフ数はどのくらいですか。

JS 15名です。非常に少ないですね。我々は完全に独立した会社であり、我々だけで経営を行なっています。現在、世界情勢が非常に変わってきていて、高価なものがなかなか生き残れなくなってきています。お金を稼ぐには安い製品を作らなくてはならないのです…。でも私は安い製品をたくさんの人たちの間で満足してもらうより、ある特定の、愛用する方々だけハッピーになってもらう方がいいと考えていますよ。

PS ここ日本でも安いものが売ればいいという風潮が強いですから、あなたのような職人魂のこもったメーカーの存在は大変心強く思います。本日はお忙しい中ありがとうございました。



Prime